

# 令和5年度 山梨県 英語教育改善プラン

## 目標

小・中・高等学校を通じて、客観的データを基に授業改善を行い、ICTを効果的に活用しながら、4技能をバランスよく育成し、児童に求められる発信力の向上を図る。

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

R4英語教育実施状況調査結果  
 ①CAN-DOリストの設定状況等  
 設定 100.0% (+1.8)  
 公表 51.8%(+30.1)  
 把握 88.0%(+22.9) ア  
 ②「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」におけるパフォーマンステストの状況  
 実施あり98.8% (+0.9) イ  
 ③言語活動時間の割合  
 91.5%

#### 未だ改善が必要な点

R4英語教育実施状況調査結果  
 ①上記のアとイに差がある。  
 ②ALT等の授業への参画  
 やり取り・発表のモデル提示  
 92.2% (-4.8)  
 ③児童が1人1台端末を50%以上の授業活用している割合  
 44.0%  
 ④カリキュラムによる小中連携  
 17.7%(+10.2)

### 2. 分析

①②③  
 R3～4英語教育改善プラン推進事業研究指定校のCAN-DOリストに基づいたパフォーマンス課題の設定、評価指標、振り返りカードの活用、言語活動を通じた授業づくりの具体について、授業動画や指導案を全県に共有したことにより、理解が深まった。

① CAN-DOリストに基づいた信頼性・妥当性のあるパフォーマンス評価が行われていない。  
 ② 授業におけるALTの効果的な活用について改善の必要がある。  
 ③ 学習者用デジタル教科書の使用も含め、言語活動を充実させるために端末が活用されていない。  
 ④ 異校種の学習到達目標を理解し系統的に日々の授業を行う必要性を感じていない。

### 3. 施策・事業

①②  
 R3～4英語教育改善プラン推進事業の研究指定校の成果物（CAN-DOリスト、パフォーマンス課題、評価指標、指導案、授業動画）を総合教育センターと連携して、各種研修会等で広く周知し、活用を図るとともに、小・中・高が連携して取り組むR5年度英語教育改善プラン推進事業において、さらに内容を深める。

R5英語教育改善プラン推進事業の取組の重点と改善点とのつながり

①④CEFRに基づく一貫性のある評価改善  
 ②活発な英語による言語活動に重点を置いた授業づくりの充実（ALTの効果的な活用も含む。）  
 ③児童生徒の発信力向上につながる1人1台端末活用  
 新たな研究指定校を設置し、本事業の取組を推進するとともに、県内に実践を共有する。  
 ・一定の英語力を有する小学校教師の新規採用に係る取組  
 採用選考に加点制度を導入し、高い英語力を有する教員の採用に努めるとともに、制度の周知や県内の大学との連携を図る。

# 令和5年度 山梨県 英語教育改善プラン

## 目標

小・中・高等学校を通じて、客観的データを基に授業改善を行い、ICTを効果的に活用しながら、4技能をバランスよく育成し、生徒に求められる発信力の向上を確実に図る。

※生徒の英語力50.0%程度

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

R4英語教育実施状況調査結果

- ①CAN-DOリストの活用  
公表 68.4% (+30.9)  
把握 79.7% (+5.9)
- ②言語活動時間の割合  
73.8% (+4.9)
- ③教師の英語使用割合  
75.5% (+4.8)
- ④小中連携実施の割合  
87.3% (+3.8)

#### 未だ改善が必要な点

R4英語教育実施状況調査結果

- ①生徒の英語力  
外部検定試験受験率  
30.8% (-1.0)  
CEFR A1 取得率  
19.9% (-1.1)
- ②教師の英語力  
CEFR B2 取得率  
34.0% (+2.0)
- ③カリキュラムによる小中連携  
17.7% (+10.2)

### 2. 分析

①②③④

R3～4英語教育改善プラン推進事業における「CAN-DOリストに基づくパフォーマンス課題を設定し、指導と評価の一体化を図る」研究成果が、全県に波及したと考えられる。特に、研究指定校による授業をオンライン・アーカイブ配信したことで、徐々に授業改善が進んできたと捉えている。

①②

生徒、教師ともに普段の英語の授業と外部検定試験の関連性を見い出せておらず、受験意欲や必要感が低い状況にあると考える。外部検定試験等を参考に、必要とされる英語力を理解する必要がある。  
③異校種の学習到達目標を理解し系統的に日々の授業を行う必要性を感じていない。

### 3. 施策・事業

①～③の改善の要因に基づき継続する施策・事業  
R5英語教育改善プラン推進事業において、小・中・高を通じて研究指定校を中心に3つの取組を行う。

- ・「活発な英語による言語活動」に重点を置いた授業づくりの充実
- ・CEFRに基づく一貫性のある評価改善
- ・児童生徒の発信力の向上につながる1人1台端末の活用

R3～4本事業の研究指定校の授業動画を研修会や校内研究会等で活用し、それぞれの項目において、3%程度の改善が図られるようにする。

改善が不十分だった要因に基づき行う施策・事業

- ①②県内の英語担当教師を対象に、外部検定試験や全国・学力学習状況調査等を参考にしながら、4技能において、現在求められている英語力を正しく理解する研修会を実施する。また、R4年度研究指定校による外部検定試験抽出受験の結果分析を基に、準会場受験等の実施を促し、検定の受験機会を確保し、取得率向上を図る。
- ③CEFRに基づいた外部検定試験を参考に、系統性が保たれたCAN-DOリストの具体を示すことで、カリキュラムによる小中連携を改善する。

# 令和 5 年度 山梨県 英語教育改善プラン

## 目標

小・中・高等学校を通じて、客観的データを基に授業改善を行い、ICTを効果的に活用しながら、4技能をバランスよく育成し、生徒に求められる発信力の向上を確実に図る。

※生徒の英語力50.0%以上

### 1. 現状

#### 改善が進んだ点

R4英語教育実施状況調査結果

- ①言語活動時間の割合  
59.8% (+9.8)
- ②教師の英語使用割合  
55.6% (+8.8)
- ③発信領域のパフォーマンス  
テストの割合  
54.1% (+5.0)

#### 未だ改善が必要な点

R4英語教育実施状況調査結果

- ①生徒の英語力  
外部検定試験受験率  
48.3% (-4.3)  
CEFR A2 取得率  
34.5% (-2.4)
- ②教師の英語力  
CEFR B2 取得率  
73.3% (-8.9)
- ③中高連携  
29.6% (+9.4)

### 2. 分析

①②③

R3～4英語教育改善プラン推進事業における「CAN-DOリストに基づくパフォーマンス課題を設定し、指導と評価の一体化を図る」取り組みが、全県に波及しつつある。特に、研究指定校のオンライン・アーカイブ配信や研修会により指導の改善が進んだと思われる。

- ①特に「話すこと」について、十分な指導と評価が行われておらず、客観的な英語力の評価への意欲にややかけている。
- ②自分自身の英語力を客観的に捉えようとする気持が高まっていない。
- ③異校種の学習到達目標を理解し系統的に日々の授業を行う必要性が高まっていない。

### 3. 施策・事業

①～③の改善の要因に基づき継続する施策・事業  
R5英語教育改善プラン推進事業において、小・中・高を通じて研究指定校を中心に3つの取組を行う。  
・「活発な英語による言語活動」に重点を置いた授業づくりの充実  
・CEFRに基づく一貫性のある評価改善  
・児童生徒の発信力の向上につながる1人1台端末の活用  
R3～4本事業の研究指定校の授業動画を研修会や校内研究会等で活用し、それぞれの項目において、3%程度の改善を図られるようにする。

改善が不十分だった要因に基づき行う施策・事業  
①②英語部会及び総合教育センターと連携して、4技能において、生徒及び教師に求められる英語力を育成するための研修会を実施する。また、自治体連携アライアンス研修により、質の高い研修を受けることができる環境を十分に提供する。  
③CEFRに基づいた外部検定試験を参考に、系統性が保たれたCAN-DOリストの具体を示すことで、カリキュラムによる中高連携を改善する。